

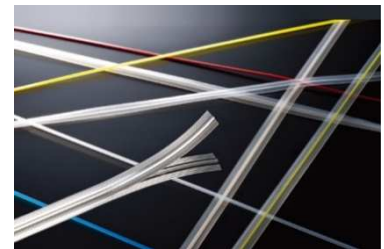
ジッパーテープ増産のため7億円を設備投資

国内2拠点生産体制へ

合成樹脂製品の製造・加工・販売を行うタキロンシーアイ株式会社(本社：大阪市北区、代表取締役社長：齋藤一也)は、約7億円を設備投資し、ジッパーテープ「サンジップテープ」の増産体制を整えます。この投資により、国内2拠点による生産体制となり、2023年3月にはサンジップテープの国内生産能力は2割増え、製品の安定供給を実現します。本投資には設備の自動化、DX化も含まれており、生産技術の更なる向上を目指します。

【背景】

国内におけるジッパーテープの用途は、食品と医薬品のパウチが8割を占めます。これらの用途には世界最高レベルの品質が求められるため、国産品のニーズが高く、コロナ禍による衛生観念の向上やフードロスを少なくするリクロザブル機能への見直しもあり、国内市場は今後も2～3%の伸長が見込まれております。旺盛な需要に対応し、かつ安定供給の観点から複数拠点にて生産すべく、現在の生産拠点であるタキロンシーアイ平塚工場に加えて、タキロンシーアイグループの株式会社ボンパック内にサンジップテープの生産設備の導入を決定しました。



ジッパーテープ「サンジップテープ」

【導入スケジュール】

2022年8月	ボンパック栃木工場（栃木県下都賀郡）に平塚工場のサンジップテープ生産ラインの一部を移設完了
2022年10月	ボンパック栃木工場内にてサンジップテープ製造開始
2023年2月	タキロンシーアイ平塚工場に新規生産設備導入
2023年3月	タキロンシーアイ平塚工場、新設備稼働。増産体制を確立



タキロンシーアイ平塚工場

【今後の見通し】

- ・本設備投資により、国内生産能力は2割増となり、複数拠点により課題であったBCPに対応します。更なる新製品、新技術開発を行ってまいります。
- ・サンジップテープの生産拠点は、国内2拠点に加えて、中華人民共和国の上海にあります「上海桑普拉斯塑料有限公司（上海サンプラス）」の3拠点となります。平塚工場はマザー工場として、技術革新や生産ライン自動化の主導、環境対応品を軸とした高付加価値品の開発を目指します。
- ・海外での需要も旺盛であり、新たな海外生産拠点の検討に入っています。最大需要地である米国進出も視野に入れ、上海+Oneの体制構築を急ぎます。

【株式会社ボンパックについて】

1985年設立。本社は東京都台東区。熱収縮フィルムを中心とした主にラベル印刷に特化したコンバーター。サンジップテープの生産により事業領域を拡大します。

【お問い合わせ】 タキロンシーアイ株式会社 〒108-6031 東京都港区港南2丁目15番1号

サステナビリティ戦略部 コーポレートコミュニケーショングループ（担当：小田、大重） TEL 03-6711-3718